

KYOTO GRAPHIE

international
photography festival

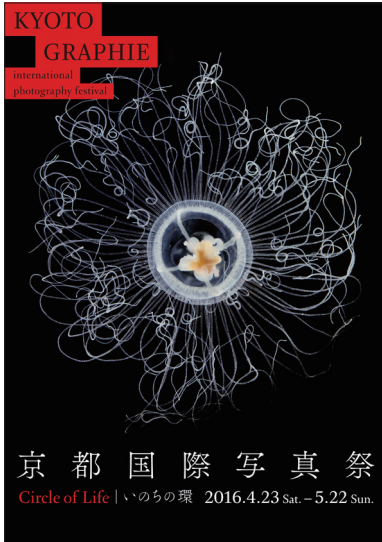
京都で開催される写真フェスティバル「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 2016」のニュースリリースをお送りします。貴媒体にて情報のご掲載やアーティストへの取材をご検討いただけますよう、宜しくお願い申し上げます。

「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 2016」開催のご案内

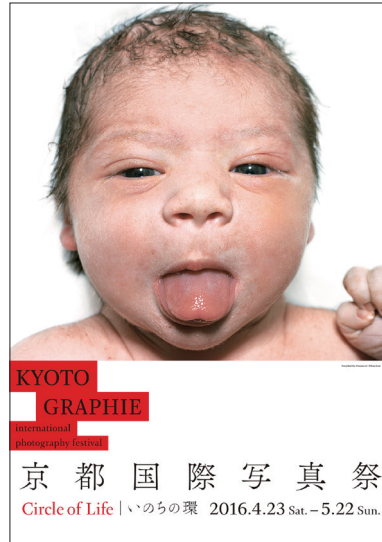
第4回目のテーマは「Circle of Life | いのちの環」

国内外のアーティストが、寺社や蔵など

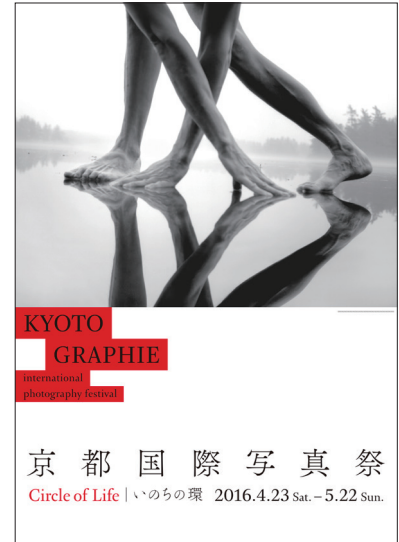
京都市内の趣きあふれる建造物にて新作や撮りおろしを発表



Christian Sardet
A *Oceania armata* jellyfish
©Christian Sardet CNRS/ Tara Oceans/ Plankton Chronicles



Thierry Bouët
Boy 35 minutes old.
©Thierry Bouët



Arno Rafael Minkinen
Fosters Pond, 1989 / courtesy PUG OSLO
©Arno Rafael Minkinen

【開催概要】

名称: KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 2016

(英語表記: KYOTOGRAPHIE

International Photography Festival)

会期: 2016年4月23日[土] - 5月22日[日]

会場: 京都市内10数会場(予定)

◎プレス向け内覧会: 4月22日[金]

◎オープニング・レセプション: 4月23日[土] 夕方

(時間・会場など詳細は後日発表します)

主催: KYOTOGRAPHIE 実行委員会

共催: 京都市(予定)、京都市教育委員会(予定)

世界屈指の文化都市・京都を舞台に開催される、日本でも数少ない国際的な写真祭「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭」。国内外の重要作家の貴重な写真作品や写真コレクションを、趣きのある歴史的建造物やモダンな近現代建築の空間に展示する本写真祭も、回を重ねるごとに好評を博し第3回までに約15万7000人の方にご来場いただき、2016年に第4回目を開催する運びとなりました。

2016年のテーマは「Circle of Life いのちの環」です。いのちは存在するかぎり、あらゆるものとつながり、その関係性を育み、そして死や消滅を迎え、時として新たないのちに還元されます。生まれ出たひとつひとつのいのちにはその存在理由があり、小さいいのちの環は、他のいのちの環とつながり、より大きな環の一部となります。地球の悠久の時間軸をあらわす縦の環と、その広大な地球を物質的につなぐ横の環。新緑の美しい頃、鑑賞者はKYOTOGRAPHIEでインスピレーションな作品と出会うことで、あらゆるいのちが紡ぐ大いなる循環に導かれ、自身に脈々と受け継がれる物語に耳を澄ますことでしょう。

皆様の「いのちの環」に新たな環がつながることを祈りながら。

日本初公開を含めた気鋭のアーティストの新作や貴重なコレクションを発表

(カッコ内の数字は次ページのプログラムの参照)

・**サラ・ムーン**¹は新作「Alchemies」を発表します。パリの自然史博物館で2013年に開催された個展にて大好評を博した本作は、同館所蔵の植物標本や動物の剥製などが、ヴィンテージのように色褪せたテクスチャのプリントに収められています。生命が骸(むくろ)となってもなお存在する被写体を取めた本作は、死を内包する生や、時の儚さを映し出し、すべての生命が時間という大きな環の中に否が応にも帰属していることを再認識させます。

・プランクトンを顕微鏡で撮影し、その美しさやそれぞれのプランクトンが持つ存在意義のストーリーで見る者を魅了する**クリスチャン・サルデ**²。2015年秋にサルデが来日し下田で撮りおろした最新作を含む写真・映像作品を軸に、アーティスト・グループ「ダムタイプ」の**高谷史郎**がインスタレーションを、**坂本龍一**がサウンドをそれぞれ手がけ、全方位的に展覧会を演出するスペシャルなコラボレーションが実現します。食物連鎖の最下層に位置しながらも、太古より存在するバイタリティを併せ持つプランクトンの神秘的な生態を捉えた本展は、地球の生命の起源と進化の過程の壮大なスケールを見る者に提示します。

・「Coming into Fashion——コンテナ社社のファッション写真でみる100年 presented by CHANEL NEXUS HALL」³では、Vogue(ヴォーグ)やVanity Fair(ヴァニティ・フェア)などの雑誌を通じ、100年以上にわたりファッション写真の傑作を世に送り出してきたコンテナ社社のアーカイブ作品が展示され、**エドワード・スタイケン**、**ジョン・ローリングス**、**ウィリアム・クライン**、**ヘルムート・ニュートン**等、名だたる写真家の作品が一堂に集います。

・卓越した功績を挙げた科学者やアーティストに贈られる「グッゲンハイム研究奨励金」を2015年に授与した**アルノ・ラファエル・ミンキネン**⁵は、代表作および京都で撮り下ろした作品を発表予定です。森や湖など雄大な自然の中で、自身のアクロバティックなモードのセルフポートレートを撮影するミンキネンの作品は、肉体をさすことで初めてたどり着く精神性の境地に迫ります。



KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 2015 展示風景 Photo by Takuya Oshima

関連イベントやワークショップなど、様々なプログラムを開催

数カ所の展覧会を廻る週末ガイドツアーやトークイベントなど、来場者向けのイベントはもちろん、国際写真センター(ICP)の講師や展示作家から、写真制作を多角的に学ぶマスタークラスなど、学生・アマチュア・プロに向けた写真にまつわるあらゆるプログラムを用意しています。

お子さまにもフェスティバル(=お祭り)を楽しんでもらえるスタンプラリーやワークショップなどのキッズプログラムも充実しています。

また、会期中に1日限定で「サステナビリティ(循環型持続可能)な社会」を目指していくことをテーマに掲げたイベントを、平安神宮の向いの緑豊かな岡崎公園で開催予定です。日中はオーガニックフードや環境に配慮したマーケットが開かれ、身近にある「Circle of Life いのちの環」にアプローチします。日が暮れた頃に大型スクリーンにサステナビリティをテーマにした写真・映像作品が映し出され、フェスティバルのスペシャルな一夜をお楽しみいただけます。

・**クリス・ジョーダン**⁶は、ミッドウェイ諸島に流れ着いたゴミをエサと間違えて親に与えられた雛アホウドリの死骸に露出する山盛りになったペットボトルのキャップを撮影したシリーズ「ミッドウェイ：環流からのメッセージ」を発表。本展では、2014年に他界したデザイナーの**ヨーガン・レール**が浜辺に流れ着いたプラスチックゴミにメッセージを込めて制作したランプのインスタレーションを併設します。

・2015年度「KG+AWARD」でグランプリを受賞した**古賀絵里子**⁷は、自身が宿した新たな生命を軸に日常を映した撮りおろしの最新作「Tryadhvan (トリアドヴァン)」(サンスクリット語で《三世[さんぜ]》過去世・現在世・未来世を意味)を発表します。

・**ティエリー・ブエット**¹²は、生後1時間以内の新生児を撮影した作品を日本で初めて発表します。赤みを帯びた顔をしゃくしゃくにした新生児たちのポートレートは、誰もが誕生という一大ミッションを乗り越えてこの世に生を受けたことを示唆し、生命の尊さをユニークに捉えます。

情緒あふれる建造物にて、作品の世界観にふれる

普段は非公開の菅田屋源兵衛 黒蔵や、建仁寺塔頭 兩足院など、情緒あふれる京都の建造物にて展示が開催されるのも、KYOTOGRAPHIEの見どころのひとつと言えます。2016年1月にリニューアルオープンするロームシアター京都(旧・京都公会館)や京都市美術館など文化施設が集まる岡崎エリアを中心に、京都市内10数カ所の会場で開催予定です。

サテライトイベント「KG+」では市内約30箇所にて展覧会を同時開催



今後の活躍が期待される写真家やキュレーターの発掘と支援を目的に開催されるサテライトイベント「KG+」。寺社仏閣など個性的なロケーションやギャラリーを中心に、京都市内の約30のスペースにて公募展とアソシエイトプログラムが同時開催され、新々気鋭のアーティストたちの作品と出会うまたとない機会です。また「KG+AWARD」を設け、公募展の中の受賞者1組には翌年度のKYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭への正式な参加権と制作費を授与するなど、次代を担うアーティストの活動が次のステップにつながる機会を提供し、継続的な支援を行います。

プログラム

1. サラ・ムーン | Sarah Moon (フランス)

2. 写真・映像: クリスチャン・サルデ | Christian Sardet (フランス)
 インスタレーション: 高谷史郎 | Shiro Takatani (日本)
 サウンド: 坂本龍一 | Ryuichi Sakamoto (日本)

3. Coming into Fashion
 —A Century of Photography at Condé Nast
 コンデナスト社のファッション写真でみる100年
 presented by CHANEL NEXUS HALL

4. フランス国立ギメ東洋美術館・写真コレクション
 Guimet National Museum of Asian Arts, Photographic Collections

5. アルノ・ラファエル・ミンキネン | Arno Rafael Minkinen (フィンランド)

6. クリス・ジョーダン+ヨーガン・レール
 Chris Jordan (アメリカ) + Jurgan Lehl (ドイツ)

7. 古賀絵里子 | Eriko Koga (日本)

8. マグナム・フォト/ EXILE: ヒューマニティの歴史をたどる、
 1945年から今日の記録
 EXILE: 1945 to Today By Magnum Photographers

9. 福島菊次郎 | Kikujiro Fukushima (日本)

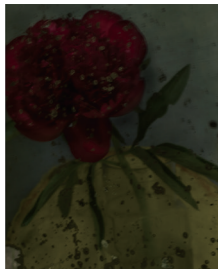
10. 钱海峰 | Qian Haifeng (中国)

11. アントニー・ケーンズ | Antony Cairns (イギリス)

12. ティエリー・ブエット | Thierry Bouët (フランス)

13. Special Exhibition by Ruinar (詳細は後日発表します)

(全てのプログラム内容・展覧会名・会場の情報は
 1月5日現在のもので、予告なく変更になる可能性があります)



1 Avant dernière pivoine (Last but one peony), 2011
 © Sarah Moon



2 Radiolarian *Spongodiscus biconcavus* from Shimoda bay
 This unicellular planktonic organism measures about 0.1mm
 © Christian Sardet and the macronauts / Plankton Chronicles



3 John Rawlings, American Vogue, March 1943
 © 1943 Condé Nast



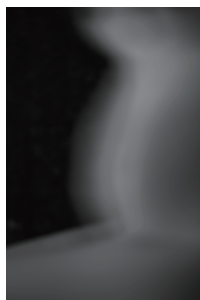
4 二代目鈴木真一「茶道」1880年代、鶏卵紙、手彩色
 © MNAA - Guimet, Paris.



5 Narragansett, 1973
 © Arno Rafael Minkinen courtesy PUG OSLO



6 CF000478 Unaltered stomach contents of a Laysan albatross fledgling, Midway Island, 2009 (from the series Midway: Message from the Gyre). © Chris Jordan



7 Tryadhvan, 2015 © Eriko Koga



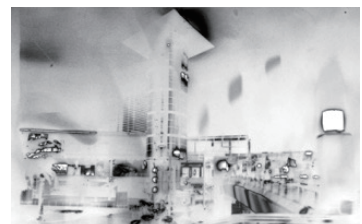
8 Refugees in the desert. The Sha-alan One camp, is the worst camp. They have orderly food lines with thousands of refugees waiting calmly for food distribution from the "Charitas" charity organization. Jordan, 1990.
 © Chris Steele-Perkins / Magnum Photos



9 福島菊次郎 / 共同通信イメージズ



10 The Green Train © Qian Haifeng



11 LA-LV_58 from the LA-LV series / 2015 / Aluminium silver
 © Antony Cairns



12 Girl—9 minutes old. © Thierry Bouët

お問い合わせ、取材のご依頼、掲載写真のご用命は下記までお問い合わせください。

〒603-8146 京都市北区鞍馬口通寺町西入ル新御霊口町270 KYOTOGRAPHIE 事務局 <http://www.kyotographie.jp>

◎事務局内広報担当: (日本語) 木薮・市川・鮫島 | (英語・フランス語) バジェ | press@kyotographie.jp Tel & Fax. 075-708-7108

◎東京広報担当: 森繁 | tokyopress@kyotographie.jp Tel. 03-3725-8877 (traffic内)